



# FOOTBALL CLUB MITO HOLLYHOCK

## ソーラーシェアリングを活用した「GXプロジェクト」

株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック



# クラブ紹介



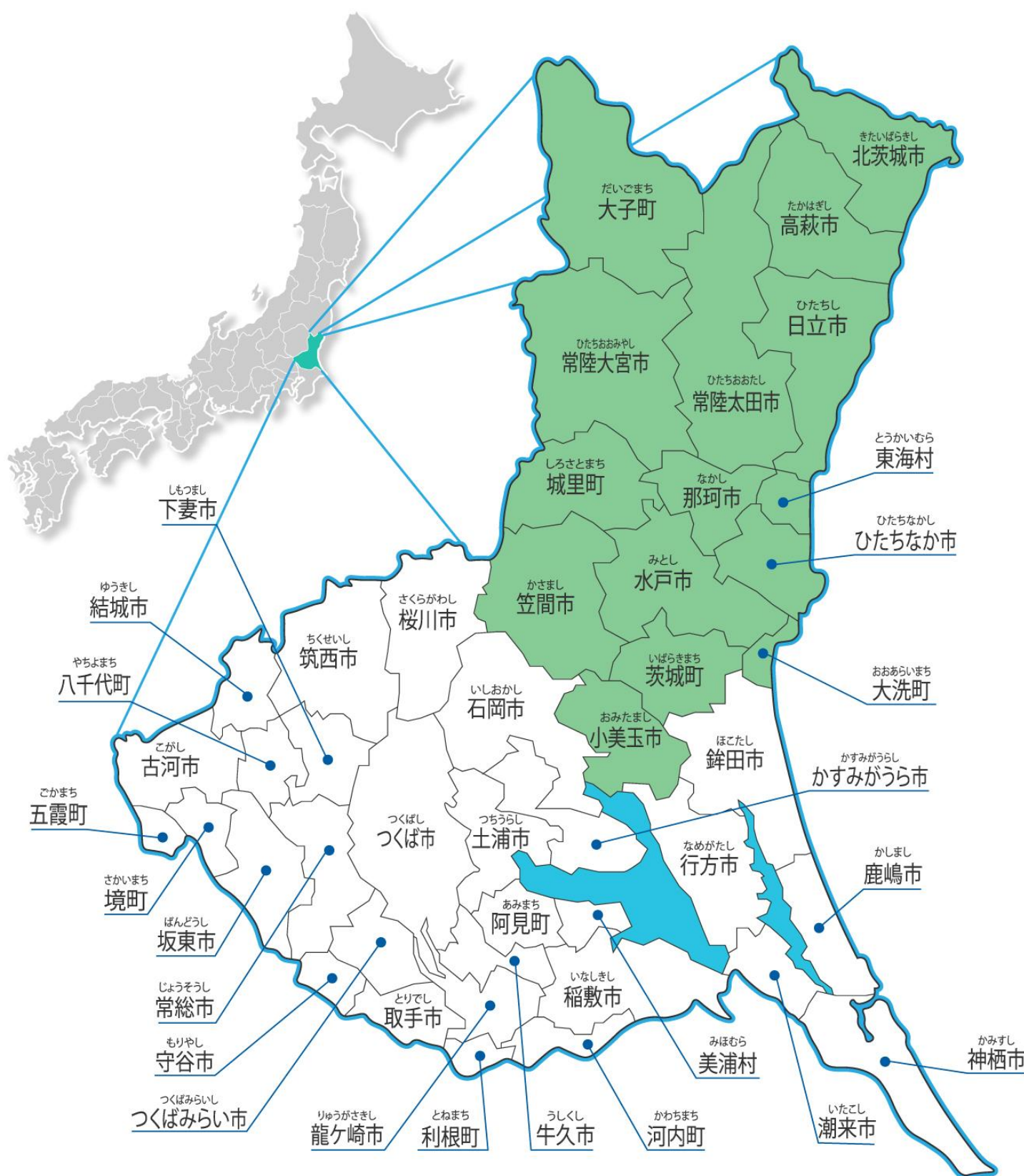
# プロフィール

クラブ名	水戸ホーリーホック
運営会社	株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック
創設年	1994年
所属リーグ	日本プロサッカーリーグ (J1リーグ)
主なタイトル	J2リーグ優勝 (2025)
ホームタウン	水戸市、日立市、ひたちなか市、 笠間市、那珂市、小美玉市、 北茨城市、常陸太田市、 常陸大宮市、高萩市、茨城町、 城里町、大洗町、太子町、東海村
スタジアム	ケーズデンキスタジアム水戸





## ホームタウン（活動拠点）



# 茨城県 県央（9市町村） 県北（6市町）

ホームタウン15市町村人口合計：  
**約102万人**



# 農事業 GRASS ROOTS FARM (GRF)

2021年9月、茨城県の地域課題である農業問題（農家の高齢化、耕作放棄地の増加 etc.）に向き合うため、城里町で圃場を借りて**農事業 GRASS ROOTS FARM (GRF)** をスタート



## 【GRFの3つのコンセプト】

### 1. PRODUCTSを作る：

私たち自身で、畑を持ち、土を触り、土づくりから栽培、収穫、（時には加工）、販売までを行う

### 2. PRODUCTSを支援する：

農業で地域を盛り上げようとしている方々を、広報や販路を増やすという側面から支援していく

### 3. JAと共に地域を発展させる：

農業から地域を元気に発展させていく



## 参加型農業を展開



クラブスタッフ、アカデミーコーチ、  
ときにはトップチームの選手も参加し  
て、ニンニクなどの栽培に挑戦

サッカースクールに通う子供たちを対  
象とした田植え＆稲刈り体験や、地域  
の方々との交流の機会の創出

ファン・サポーターも巻き込み、参加型  
& 体験型アクティベーションにすること  
で、農場に新しいコミュニティを創出



# 気候アクション

-GXプロジェクト-



2024年5月

新規事業「GXプロジェクト」発表

GXプロジェクト  
ソーラーシェアリング

30  
ANNIV



GXプロジェクトを  
ユニフォームのテーマに採用





世代を超えたメンバーで  
パネルディスカッションを実施

水戸ホーリーホック  
**GXプロジェクト**  
新規事業発表&パネルディスカッション

30  
ANNIVERSARY

いま、自分たちが  
ミライのためにできることは？



田島修太  
水戸ホーリーホック 選手

秋谷 浩  
水戸ホーリーホック 選手

石川 遼太  
水戸ホーリーホック 選手

辻井 雅行  
水戸ホーリーホック 選手

西村 卓郎  
水戸ホーリーホック 選手





# 社会課題

大気汚染

地球温暖化

気候変動

# 地域課題

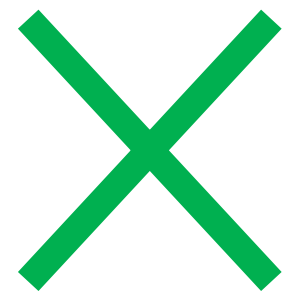
農家の高齢化

耕作放棄地

経済の衰退



# 社会課題



# 地域課題

地域の耕作放棄地を再活用し、  
**ソーラーシェアリング**を活かして  
地域循環共生圏を創る





# 電気と農作物の地産地消

## 電気

### 自家消費

└電柵・充電式草刈り機

### 地域へ売電

└地域で使う電気にするこ  
とで自走社会を確立



### 自治体との協働

└城里町の道の駅2ヶ所の電気  
としての活用（両施設の約  
30%ずつを網羅）

## 農作物

### 有機JAS取得を目指す

└化学肥料を使わない農業  
└有機農業に取り組む方々との  
コミュニティ形成



### 農作物の販路支援

└ホーム試合での販売  
└サブスクBOX化





# 「地域循環共生圏」水戸モデルの相関図



GX  
PARTNER





## 再生可能エネルギーによるCO2削減

### ▶年間発電量：

水戸ホーリーホックのGXプロジェクトでは、ソーラーシェアリングの太陽光発電で約 **9万kWh**（見込）



これによる年間のCO2削減量：

**38.07t-CO2**

※東京電力から電気を購入すると約38tのCO2が排出されるが、再エネを使用した場合、その分が削減となる計算





## Jリーグの持つ可能性

現在はJ1～J3リーグまでの60クラブが、41都道府県に存在しており、ホームタウンとして日本全国の87%の自治体として連携を取っている

全 **60** クラブ   **41** 都道府県   **87** % 自治体

### ▶今後への期待：

Jリーグがプラットフォームとなり、全国のJクラブへ情報を展開することで“**水戸モデル**”が広がっていき、各クラブが各地域で、それぞれのホームタウン自治体やパートナー企業様を巻き込みながら、好事例を横展開していくこと



未来の地球  
に良いパスを



FUTURE





新しい原風景をこの街に

---

株式会社フットボールクラブ  
水戸ホーリーホック

執行役員／GM補佐／事業統括本部長

瀬田元吾